

# こだわりの包装にも対応

## 602パレット収容の立体冷蔵庫

名古屋中央卸売市場  
北部市場のタカサカ青果  
(高坂尚芳社長、年商1  
36億円)2020年9  
月期)では、場外に設置  
した新プロセスセンター  
が本格稼働を始めた。毎  
分最大50パックが可能な  
全自動包装機(寺岡精工  
製「逆ピロシユリンク  
包装機」とともに、ベテ  
ランのパートによるこだ  
わりのパッケージ形態も  
強化していく。

社員5人が常駐。作業場  
は2室に分かれ、うち1  
室に導入した全自動包装  
機では、ラップによりキ  
ャベツ(一玉、2分の1、  
4分の1)、レタス(2分  
の1)、ダイコン(一本、2  
分の1、3分の1)、ハク  
サイ(2分の1、4分の  
1)、カボチャ(2分の1、  
4分の1)などを包装。  
これらの主力野菜はカッ  
ト、ラップした販売が主  
流。ただ、オーターが大  
量になりがちなため、省  
力化しながら安定的な供  
給が求められていた。当

初は1台だったが、今後  
増強される。  
もう1室は、パートに  
よる手作業でのパックが  
主体。同社ではイモ・タ  
マ類などのパックは外注  
しているが、ここでは細  
かい作業を必要とするパ  
ックを行う。一例を挙げ  
ると、ミズナの小分け  
や、産地からバラで出荷  
されたシタケから大粒  
のものだけを選別して4  
個パックするなど。

パートのうち12人は知  
障がい者。同社では30  
年前から知的障がい者の  
雇用を続けており、30年  
近いキャリアを持つパー  
トも多い。パック作業、  
だけでなくパソコンへのデ  
ータ入力や他のパートへ  
の指示も行つなど、貴重  
な戦力だ。

なお同社では新プロセス  
センターに先立ち、既  
存の立体冷蔵庫(272  
パレット収容)に隣接し  
て、330パレット収容  
の立体冷蔵庫を増設。合



差別化につながるパックは熟練パートが商品化

計602パレット(1パ

レット)約1ト搭載)の  
立体冷蔵庫は、青果仲卸  
としては国内最大。新プ  
ロセスセンターと合わせ  
万全の鮮度管理でさらに  
機能を強化していく。